

佐賀市教育委員会 様

学校名 佐賀市立小中一貫校北山校

校長名 北川 正行



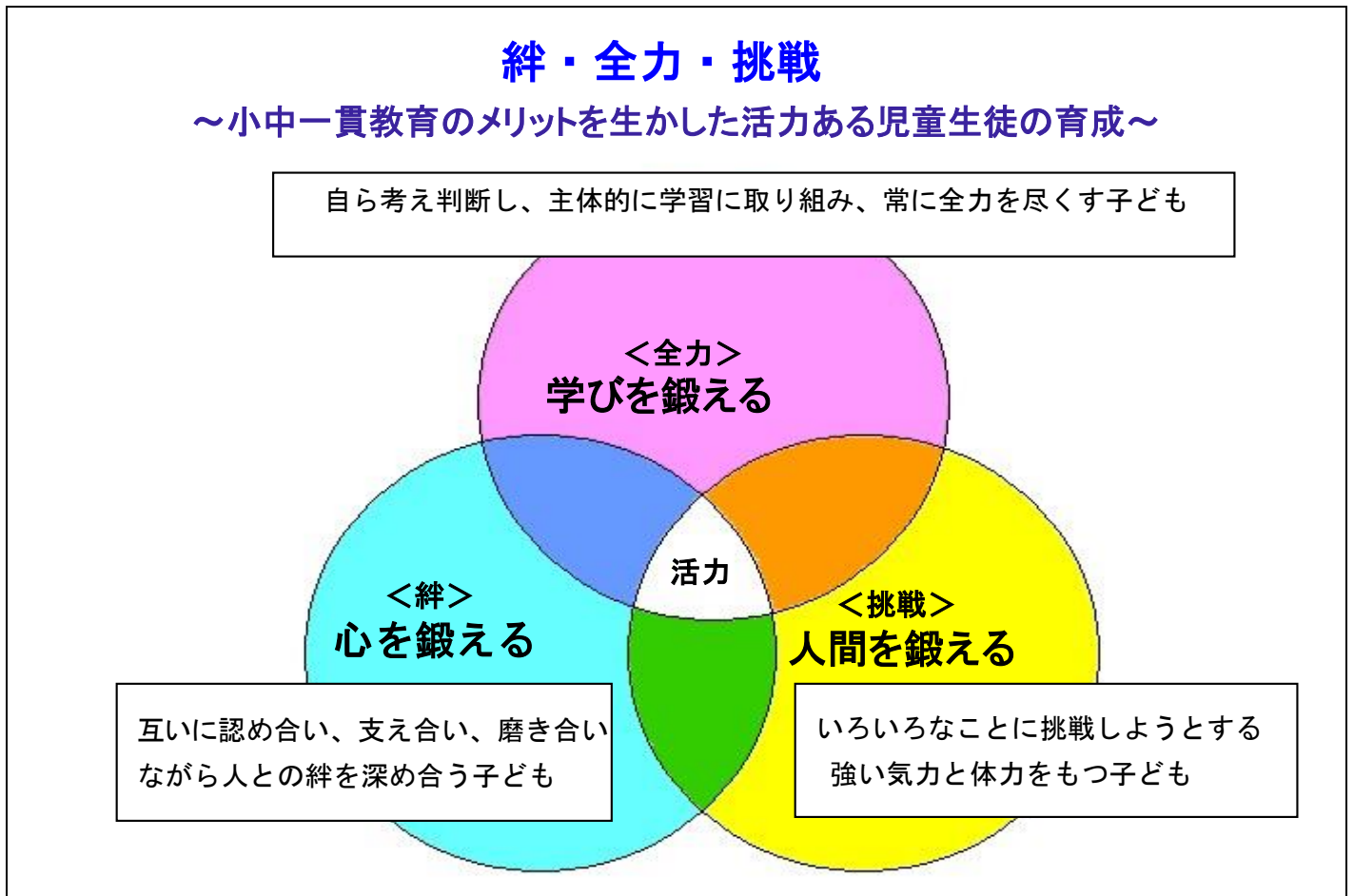
平成27年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届出します。

記

I 教育目標

(1)学校の教育目標



<めざす学校像>

- ・ 人との絆をつくる学校
- ・ 主体的な学びをつくる学校
- ・ 地域コミュニティの核としての存在意義をつくる学校

<めざす教師像>

- ・ 児童生徒一人一人の心に寄り添い、個性の伸長に努める教師
- ・ 常に自己研鑽に励み、資質能力の向上に努める教師
- ・ 「チーム北山」の一員として自信と誇りを持ち、学校力の向上に努める教師

<めざす児童生徒像>⇒上記図の□の文言

(2) 目標を達成するための基本方針

◎ 仲間との強い「絆」を持ち、常に「全力」を尽くし、いろいろなことに「挑戦」する

活力ある児童生徒の育成

① 4・3・2制による義務教育 9 年間を見通した系統的・継続的な一貫した学習指導・生徒指導

前期（1・2・3・4年）	中期（5・6・7年）	後期（8・9年）
<基礎期>	<定着期>	<発展期>
基礎・基本の定着を図り、論理的思考力の基礎を養い、基本的な生活習慣を身に付ける。	基礎・基本を確実に身に付け、論理的思考力を伸ばし、規範意識を高める。	基礎・基本を確実に身に付け、活用する力や論理的思考力を伸ばし、社会性を高める。

② 小中一貫教育のメリット発信

- 小中一体型校舎を生かした「一つの学校」としての全職員の協働体制の強化
- 地域の教育資源を活用した地域とともに育つ学校づくり推進
- 小中一貫教育パイロット校としての研究の充実と情報発信
- 小学生にとってモデルとなる中学生の姿を目標とし、仲間との「絆」を支えにして「全力」で「挑戦」する児童生徒の育成

③ 自己肯定感や関係力を高め、支持的風土をつくる仲間との「絆」づくり

④ いつも「全力」で、いろいろなことに「挑戦」しようとする児童生徒への承認

⑤ 「北山授業モデル」の徹底による言語活動の充実、思考要素（6項目）に着目した論理的思考力の育成

⑥ グローバル社会に資する思考力、活用力、関係力を高める国内外との交流授業への取組

⑦ 第二次佐賀市総合計画に掲げられている「佐賀市将来像：豊かな自然とこどもの笑顔が輝くまち さが」を受けた、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに学ぶ取組

⑧ 学校行動目標「あいさつ・返事・清掃・はきものそろえ、読書」の徹底

II 本校の教育の特色

小中一貫教育のメリットを最大限に生かした活力ある児童生徒の育成

- 「絆」「全力」「挑戦」を合言葉にして、小学生にとってモデルとなる中学生の姿を目標とし、仲間との絆を支えにして全力でいろいろなことに挑戦する児童生徒への承認
- 4・3・2制による義務教育 9 年間を見通した系統的・継続的な一貫した学習指導・生徒指導の徹底と情報発信
- 支持的風土づくりを基盤とした「人と関わる力」の育成
- 縦割り班活動・児童生徒会活動を生かした自己肯定感や人権意識を高める学級・ブロック・学校づくりへの取組
- 「北山授業モデル」(つかむ・見通す・考える・深める・まとめる)に沿った「めあて、個人思考・集団思考を深める言語活動の充実、振り返り」の授業実施、「思考6項目」(比較・順序・種別・理由づけ・定義づけ・推理)に着目した論理的思考力及び学力の向上
- グローバル化に対応した国内外の多様なタイプの学校との遠隔地交流や直接交流を取り入れた思考力・活用力・関係力の向上(オーストラリア・リスモア校等との交流)(小川小中学校等との交流などを通して)
- 中学部教員乗入等小中一貫校のメリットを生かした多様な授業形態を取り入れた複式学級における学力の向上(小5・6年50分授業/複式解消のため中学部教員による小学部授業への乗入実施)
- 補充学習タイム「友愛」による基礎・基本の定着と自学ノート活用による家庭学習習慣の確立
- 9年間を見通した外国語活動及び外国語教育の充実による英語コミュニケーション能力の向上
- ふるさと北山を教育資源とした産業等を学びながら自立を見据えたキャリア教育による社会性の育成

- 学校行動目標「あいさつ・返事・清掃・はきものそろえ、読書」の徹底による規律ある生活習慣の確立
- ふれあい企画推進協議会と連携した体験活動推進によるふるさとを誇りに思う心や自己肯定感の高揚
- 地域コミュニティセンターとしての役割を果たすべくコミュニティスクール構築念頭に入れた取組による地域の活性化

Ⅲ 教育計画

1 本年度の教育及び指導の重点

(1) 本年度の教育の重点

平成26・27年度 佐賀県教育委員会研究指定【教育課程】、平成26・27年度 佐賀市教育委員会研究指定【学力向上】を受け、「人と関わる力や思考力、活用力を高めて学力向上を図る」を研究主題とし、次のような取り組みを行っていく。

① 「絆」—絆づくり【キーワード： 支持的風土づくり 人と関わる力 自己肯定感】

≪9 学年の児童生徒の異学年交流や他校との交流、学級づくりを通して関係力の育成を図る≫

- 互いに認め合い、支え合い、磨き合う支持的風土づくりや居場所づくりを通して人との「絆」を深める力や自己肯定感、人権意識を高める。
- 学校行動目標：「あいさつ・返事・清掃・はきものそろえ、読書」の徹底を図る。
- ブロック集会におけるスピーチ活動等を充実させ、ノー原稿でのプレゼン力を高める。
- 9 学年による縦割り班活動や児童生徒会活動を通して自主性や自治力、社会貢献精神を養う。
- ふれあい企画推進協議会と一体となった体験活動や他校との交流活動などを通して積極的に人と関わる力やふるさとを誇りに思う心を養う。

② 「全力」—学力向上【キーワード： 言語活動の充実 論理的思考力 自学ノート】

≪「北山授業モデル」に沿い、多様な交流を通して基礎力・思考力・活用力・関係力の向上を図る≫

- 「北山校授業モデル」の共通実践及び教職員一人一人の指導法改善を図る。（校内研と連動した授業研究会、地域公開授業を兼ねた研究発表会、ICT 利活用の推進等）
- 言語活動の充実や「思考6項目」に着目した論理的思考力を高める取組、読書指導によって学力の向上を図る。
- 国内外との遠隔地交流や中規模・大規模校との直接交流を通して、基礎的基本的知識・技能を活用する力の育成を図る。
- 補充学習会「友愛」（朝自習、放課後学習会、中学生が小学生に教える場）を推進するとともに「学習の手引き（改訂版）」や自学ノートを活用して自律した学習者を養成し、基礎・基本の定着を図りながら家庭学習習慣を身に付けさせる。

③ 「挑戦」—地域連携【キーワード： ふるさとへの誇り コミュニティセンター機能】

≪小中一貫教育を生かした地域一体型行事を通して故郷を誇りに思う心や挑戦意欲の育成を図る≫

- ふれあい企画推進協議会と一体となった地域連携行事、地域を巻き込んだ体育大会、文化発表会、祖父母学級等を推進し、故郷を誇りに思う心や挑戦意欲の育成を図る。
- 学校だより、学級だより、ブロック通信、校内研だより、ふれあい通信等で積極的に学校情報を提供し、北山校教育活動への理解を深める。
- 県内外へ向けての校舎一体型一貫校としての情報発信（学校便り、HP、マスメディア等）
- 地域公開授業研究発表会を開催し、本校の取組を全国にアピールする。

(2-1) 幼保小中連携の取り組みに関する本年度の重点

- ともに北山の地域で活動する北部保育園・北山東部小学校と北山校との保小中連携を推進する。
 - ・保育園と北山校及び北山東部小学校、富士小学校との連絡会を3回実施し、ソフトプログラムを含めた保育や指導に関する共通理解を図るとともに、学校教育への円滑な移行を図る。
 - ・保育園、北山校で相互参観を行い、園児理解及び児童生徒理解を深める。
 - ・保育園と北山校の相互交流活動を継続し、園児と児童生徒の交流を図る。
 - 北山校から⇒1～2年生；生活科での保育園訪問
 - 8年生；保育園での職場体験
 - 9年生；技術家庭科の保育単元での保育体験学習
 - 保育園から⇒北山校体育大会での園児種目、北山ふれあい企画行事への園児参加等
 - 合同どろ遊び体験
 - 小学部での授業体験
- ・北山東部小学校との年3回の交流学习を継続して行き、交流を深める。6年生は進学を見据え、年6回実施する。
- ・北山東部小学校との合同遠足(1～5年)
- ・夏季休業中に、北山東部小学校と合同で人権・同和教育職員研修、町内3校で教育相談研修を行う。

(2-2) いじめ・いのちを考える日の取り組みに関する本年度の重点

- 北山校いじめ防止基本方針に則り、対策委員会を中心にいじめを未然に防止すること、及びいじめ問題の早期発見・早期対応に努める旨を児童生徒に示し、全校あげていじめのない学校づくりに取り組む。
- 児童生徒会活動において、いじめ・いのちを考える取組を行う。
 - ・児童生徒総会で決定した「北山校みんな仲良し宣言(いじめゼロ宣言)」や故中村先生の追悼集会、交通安全集会などを通して、命や人権の大切さについての意識付けを図る。
 - ・児童生徒集会(月1回)において、「北山校みんな仲良し宣言」を行い、全校児童生徒が学年ごとに輪番で、いじめ防止や人権尊重に関する提言パフォーマンスの企画・実践を通して人権意識を高める。
- 北山校人権週間の取組
 - ・1～9学年での人権集会において、いじめ・いのちを考えるテーマの講話を行う。
 - ・「ぽかぽかの木」作成、人権標語作りに取り組み、作品を掲示するなどの活動を通して意識化を図る。
- 毎月生活アンケートを実施し、子どもたちの声を聞くとともに今後の指導に役立てる。
- 全教科全領域において、新学習指導要領の道德教育の観点を踏まえた取組の充実を図る。

(2-3) 市民性をはぐくむ取り組みに関する本年度の重点

- ふれあい企画の行事(ふれあいサマーキャンプ、ふれあい冬の北山まつり)を行う中で、地域の方々や市街地からの参加者と協力して準備・運営・活動をする楽しさを味わわせるとともに、協調性や自主性を養う。
- 総合的な学習の時間や勤労生産的行事等に、地域の方をゲストティチャーとして依頼し、北山の地の利を生かした活動を展開する。
 - 〈例〉野菜づくり、昔遊び道具づくり、田植え、稲刈り、ふるさとの食づくり等体験学習の指導
- 児童生徒会主催による地域の環境を考えたボランティア清掃に取り組み、社会貢献意識を高める。
- 家庭や地域と協力し、各地区の祭りやもぐら打ちなど、北山地区の伝統行事に継続して参加すさせることで、地域の一員としての自覚や自己効用感をもたせる。
- キャリア教育の一環として、自分たちが住む地域内で職場体験活動を実施する。(8年生で実施)

(3)指導の重点

各教科	<p>○教育活動全体を通して、「人と関わる力」を育成する。</p> <p>○全教科を通して ICT 利活用を推進しながら、学力向上を図る。</p> <p>○基礎・基本を徹底させ、確かな学力を身につけさせる。そのために一貫した指導体制のもと各教科で学力向上の具体的な目標を定めて取り組む。</p> <p>○各教科の授業において、「北山校授業モデル」を共通実践し、言語活動を充実させ、個人思考・集団思考を積極的に取り入れた学習活動を行うことで、論理的思考力・表現力・発表力を高める研究をさらに進める。</p> <p>○算数・数学の基礎・基本の充実のために5年、6年、7年、9年でTT 授業を実施する。</p> <p>○朝の時間(朝の会・RE タイム)を有効活用し、教科指導と関連させながら言語活動の充実を図る。</p> <p>○辞書を活用させ、語彙力を高める。</p> <p>○スピーチ活動や季節ごとの「ちょっと俳句」など、意図的・計画的な表現の場を設定し、言語活動の充実を図る。</p> <p>○保護者と協力して、「学習のてびき」や「自学ノート」を活用した家庭学習を充実させる。</p> <p>○少人数の利点を生かし、「個人カルテ」を基に個に応じた学習面での指導計画を作成し、全職員の共通理解のもときめ細かな指導を行う。</p> <p>○【小学部】</p> <p>①複式学級においては、3・4年の国語・社会・音楽・図工と5・6年の国語・音楽・図工・家庭科でAB年度カリキュラムによる授業を行う。</p> <p>②1・2年、3・4年、5・6年で合同授業(音楽・図工・体育)を行う。 *生活科は一部合同</p> <p>③複式学級においても、3・4年の算数・理科と5・6年の社会・算数・理科では単学年授業を行う。</p> <p>④年間を通して中学部教師による授業や小中教師による TT 授業で、個に応じた指導を行う。</p> <p>⑤週2回放課後に「友愛タイム」を設定し、自主的な学習の習慣化を図るとともに、既習事項の補充・深化を図る。また、学習個人カルテを活用し、個々の学習実態に応じて個別指導を行い、学習内容の理解と定着を支援する。</p> <p>○【中学部】</p> <p>①小学部で身につけた表現活動のスキルを受け継ぎ、特に話し合い活動を取り入れた授業を各教科で行い、論理的思考力・表現力・発表力を高める。</p> <p>②小規模、少人数の利点を生かして、きめ細かい個別指導を行う。</p> <p>③基礎・基本 の定着と活用力の向上をめざし、家庭学習とつなげた授業を工夫する。</p> <p>④週1回放課後に「友愛タイム」を設定し、自主学習に取り組ませるとともに、朝自習と連動させて個々の課題に応じて個別指導を行い、学習内容の理解と定着を支援する。</p>
国語	<p>○【小学部】【中学部】</p> <p>・音声言語活動の充実を図るために授業の中でペアやグループでの話し合い活動を取り入れたり、スピーチ活動を積極的に行ったりして、表現力の育成を図る。</p> <p>・語彙力を高めるため、漢字や言葉などの基礎基本の定着を図る。</p> <p>・読書活動を充実させることで、理解力・思考力を深め、言語感覚を養っていく。</p>
社会	<p>○【小学部】</p> <p>・作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を充実させることで、社会的な見方や考え方を養う。</p> <p>・デジタル教材や ICT 機器を活用し必要な情報を収集させ読み取らせることで、社会的事象に関する基本的な知識、概念の明確化を図る。</p> <p>・単元の終末に調べたことをまとめ発表する機会を多くし、子どものプレゼンテーション力の育成を図る。</p> <p>・遠隔地との交流授業の機会を設定し、他地域との交流を通して思考力、判断力、表現力を養っていく。</p>

各 教 科		<p>○【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器やデジタルコンテンツを有効に活用し、情報の選択、収集、分析および活用の能力を高める。 ・話し合い活動や作業的な学習およびその発表などを通して、社会的思考力・物事を多角的、多面的にとらえる力を養い、公民的資質を向上させる。
	算数	<p>○【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的な思考力・表現力を育成するために、授業の中で自分の考えを表現したり集団で深め合ったりする学習活動を取り入れる。 ・ICT を活用しつまずきやすい子への対応策を改善しながら、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。 ・【友愛】の時間を活用し、基本的な知識・技能を確実に身につけさせる。 <p>○【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業用とやり直し用のノートを準備させ、ノート指導を行い、授業の振り返りや繰り返し練習を徹底する。 ・朝自習と【友愛】の時間を活用し、基礎的な計算技能を定着させる。 ・数学的な思考力・表現力を育成するために、話し合い活動の場面を設定し、数学的な表現を用いること、根拠を明らかにすること、筋道を立てて説明し伝え合うことを意識させた学習活動に取り組む。
	理科	<p>○【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の利点を生かし、一人ひとりが観察・実験を行うことで、科学的な認識の定着を図る。 ・児童の知的好奇心や探究心を高めるために、ICT を活用し、観察・実験や自然体験、科学的な体験を充実させた指導の工夫を行う。 ・毎時間の活動や学習ポイントをふりかえるノート指導の工夫をする。 <p>○【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板などの ICT 機器を有効活用し、生徒の理科に対する興味・関心を高め、天体などの空間把握概念を向上させる。 ・問題集や学習プリントの活用方法を指導し、繰り返し解くことの大切さを実感させる。
	音楽	<p>○【小学部】【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱や合奏などの集団的活動などを通して、音楽の面白さやよさ、美しさを味わわせながら豊かな心を育てていく。 ・合唱や合奏などの集団的活動や鑑賞の活動を通して、音楽の楽しさや美しさ、音楽することの喜びを味わわせ、豊かな心を育てていく。
	図工	<p>○【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の感性を働かせながら造形的な創造活動を取り入れることで、作ったり表現したりすることの喜びを味わわせ、豊かな情操を養っていく。 <p>○【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や学校・地域など身近なものにも目を向けさせ、美術作品や生活の中の造形、美術文化、文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせて、それらのよさや美しさを鑑賞させることで、心豊かな生活を創造していく意欲と態度をたかめる。
	<p>体育</p> <p>保健 体育</p>	<p>○【小学部】【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト等の結果を踏まえ、児童生徒の実態に応じた体力向上推進の計画を立て、適切に実践させる。 ・準備運動の中に3分間走や腕立て伏せ、腹筋、背筋などを取り入れ、体力の向上に努めるとともに運動量の十分な確保に努める。 ・授業では場面に応じた教師の指導助言、児童生徒の教え合い活動、学習カードの工夫等により言語活動の質的な向上を図りながら、基礎的な知識や技能を身につけさせ、体力の向上を目指す。

	<p>・けがの防止や病気の予防、こころの健康など日常の生活における健康・安全については、養護教諭や担任と連携して指導を行い、知識や理解を深めさせ、児童生徒の資質や能力を高める。</p>
家庭	<p>○【小学部】</p> <p>・家庭・地域社会において生活をよりよくしようと工夫する能力や実践的な態度を育成するために、ICT を活用し、体験活動を多く取り入れ、知識・技能の確実な定着を目指す。</p>
技術 家庭	<p>○【中学部】</p> <p>・技術で学習することがらの社会と環境に果たす役割をしっかりとらえさせる。特に木材加工では、地域の林業とも関連づけながら授業を進め、地域の産業や産物への理解を深めさせる。</p> <p>・家庭科の保育や衣食住の学習では、体験活動や聞き取りなど人と触れ合う活動を通して、祖父母の知恵や地域の伝統に学ばせる。食の学習では食材としての地域特産の野菜について、理解を深めさせる。</p>
英語	<p>○【中学部】</p> <p>・ICT 機器を活用したオーストラリアの中学校との交流を通して、実際に学んだ学習内容を活用させ、コミュニケーションへの関心・意欲を高める。また、交流の中で、プレゼン力、質問力、応答力などの基礎的基本的知識・技能を活用する力を身に付けさせることで、コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>・速さを意識した音読を重点的に行い、リスニングや読解力を向上させる。</p> <p>・ALT との会話やペア学習を通して、言語活動の充実を図る。</p>
道徳	<p>○ 道徳の時間を要として、全教科及び全教育活動を通じて道徳教育に取り組む。</p> <p>○ ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験活動や道徳的实践を充実させ、自己表現や自己開示など個々の児童生徒について出番と承認の場面をつくることで、自己肯定感情を高める。</p> <p>○ 異学年との合同授業、特別支援学級との交流を通して、個性の違いを理解しお互いを認め合う仲間づくりを進める。</p> <p>○ 授業参観の際、各学級で「ふれあい道徳」を実施し、家庭で話題にして会話を増やしたり理解や協力を求めたりすることで、一貫した指導をしていく。</p> <p>○ 「私たちの道徳」を活用し、様々な人との出会いや自然体験をふり返り、学んだことや心の変容を表現させる。</p>
特別活動	<p>○ 支持的風土づくりをベースにして、互いに認め合い、支え合い、磨き合う学級をつくる。</p> <p>○ 学級活動においては、話し合いやスピーチなど、自己の考えを表現し、意見を交換する場を設定することで、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、自主的、実践的に諸課題を解決しようとする健全な生活態度を身につけさせる。また、その中で自分の能力や生き方についての自覚を深めさせる場を工夫する。</p> <p>○ 5年生から9年生で児童生徒会を組織し、総務・文化・保体の各委員会で活動を行い、北山校の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、自主的に諸課題を解決しようとする実践的な態度を身につけさせる。また、ボランティア活動などの社会的参加の場を工夫する。さらに、地域との交流を活発にし、地域の活性化にも貢献する。</p> <p>○ 体育大会や文化発表会、サマーキャンプなどの行事において、児童生徒が創意工夫して運営する9学年による縦割り班活動を推進する。また、春の歓迎遠足での6学年の小学部縦割り班活動、幼保小連携行事等でのブロック縦割り班活動の場を設定し、人と関わる力やコミュニケーション能力を高める。また、保護者・地域を巻き込んで楽しめる場とし、愛郷心をはぐくむ。</p> <p>○ 各活動や行事を通して、異年齢 集団の中で認め合い、助け合うなど、お互いを思いやる心やリーダー性をはぐくむ。お互いの考えや体験を共有することで、集団への所属感や連帯感を深める。さらに、自分の役割に責任をもつなどの集団の一員としての自覚と、集団生活におけるルールを守る態度を育てる。</p>

総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に関する事柄や事象の中から課題を設定し、多様な人々と関わったり、体験的な活動をしったりする中で、自ら進んで生き生きと活動する児童生徒を育成する。 ○ 前期は「ふるさとのよさを知ろう」、中期は「ふるさとの歴史と産業について学ぼう」、後期は「わたしたちのふるさと北山発信・発進」のテーマから個に応じた課題を設定し、地域の自然や人のすばらしさにふれることで「北山大好き」という意識をふくらませ、郷土への愛着と誇りを持たせる。特に中期(5・6・7年)は、3学年にわたる合同授業を積極的に進める。 ○ 保護者・地域の人材を活用することで、郷土のよさを実感させるとともにキャリア教育につなげる。
(小) 外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5・6学年で年間 35 単位時間の外国語活動を実施する。「Hi, Friends」を活用した年間指導計画を立て、実施する。 ○ 児童の「聞く」「話す」といった活動を中心とし、コミュニケーション能力の素地を養う活動を行う。 ○ 児童の発達段階にあったアクティビティーや、児童が興味・関心をもって取り組める教材・教具の開発や収集を行う。 ○ 学級担任、中学部英語教師、ALTのTTによる指導方法の充実を図るとともに、7年生へつながっていくような小中連携の取組を進める。 ○ 前期(1～4年)については、英語活動の授業とで10 時間実施する。 ○ ICT 機器を活用した外国の遠隔地との交流をすることで、児童のコミュニケーション力育成に生かす。
生徒指導	<p>〈生徒指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校教育目標を具現化するための学校生活月目標を掲げ、重点指導を行う。その月目標を具体的な行動目標として示し、職員が輪番で工夫を凝らして説明し、実践につなげる。 ○ 月1回の子ども支援会議(生徒指導・特別支援教育・教育相談の包括的会議)を設け、毎月の生活状況や気になる児童生徒の実態を継続的に報告し、情報の共有化を図り、今後の生徒指導について協議する。 ○ 毎月1回、生活実態調査を行い、児童生徒理解を深めるとともに、いじめ等の早期発見に努める。 ○ Q-Uテストを活用して児童生徒一人一人の実態、学級、学校の現状を把握し、指導や改善に生かす。 ○ 避難訓練を年間2回実施する。6月には不審者対応避難訓練を、11月には防災避難訓練を実施し、危機に遭遇した時の対応について学ばせる。 ○ 4月に安全マップを確認する。小学部は、4月に教師同伴による登下校指導を行い、同時に通学路の安全点検と子ども110番の家を確認する。小学部の登校班のリーダーに反射タスキを着用させ、中学部は、登下校時に反射チョッキを着用させ、自己の命を守る意識を持たせる。 ○ 1学期に交通安全教室を実施し、歩行者としての心得・自転車の乗り方・整備の仕方など実践につながるよう指導する。小学部は地区別集団登下校を実施する。また、児童生徒全員が防犯ブザーを携行し、緊急時に備え、活用できるように指導する。 ○ 毎水曜日の一斉下校時に、ブザーの警笛確認と交通安全宣言文の唱和を行い、意識化を図る。 <p>〈教育相談〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒自身が現在の自分および自分の問題について理解し、どのようにすればその問題を解決できるかについて自己洞察をし、自らの内に持つ力によって自己変容していくことを援助する。 ○ 定期相談を計画し、実施する。中学部生徒は、1 学期にスクールカウンセラーとの面談を実施する。 ○ スクールカウンセラー、担任、保護者との連携を図る。 ○ 教育相談便りを発行し、保護者へ教育相談の呼びかけ、いつでも相談できるような体制作りを行う。 ○ 子ども支援会議などで児童生徒の問題についての検討、情報の共有を図るとともに、課題を抱える児童生徒については、個別の指導計画も活用しながらケース会議を開き、管理職を含め複数の職員でその支援にあたる。

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善・克服に必要な支援を行う。そのために、個別の指導計画を全児童生徒について作成し、指導の記録を日常的に、さらに、子ども支援会議（特別支援教育や生徒指導等の会議）後には、必ず記入して活用する。 ○ 子ども支援会議の中で、全児童生徒の心身の状態を全職員で共通理解し対処していくように努める。 ○ 特別支援学校・教育センター等の職員を講師に招いた校内研究会を開催し、研修を深める。また、関係者・機関との連携を図りながら個別の教育支援計画、個別の指導計画の修正・追加を行い、支援会議（ケース会議）による効率的な指導を行うようにする。 ○ 幼保や校区内小学校との交流を深め、学習面・生活面などの支援のあり方について連携を図る。 ○ さまざまな機会を捉え、保護者への啓発活動を行う。
人権・同和教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9学年の縦割り班活動や自己肯定感情を高める体験的活動及び人権・同和教育の実践を通して、教師・児童生徒ともに差別をなくす実践力をつけ、認め合い・支え合い・励まし合う仲間づくりを進める。 ○ 全教科、全領域において人権・同和教育の視点に立った学習指導に努め、人権学習・平和学習・いのちを大切にす教育の共通実践など、9年間の小中一貫した指導のあり方を確立する。 ○ 社会科での部落差別に関わる学習や部落問題学習の実践には、小中の教師がお互いに参観するように努め、これらの学習と連携して児童生徒の人権感覚や人権意識を高めるために、学級担任による人権・同和教育の視点に沿った適切な教材を使った授業を行う。 ○ いじめいのちを考える日の取組として、児童生徒会及び学年単位のアピールを月替わりで行う。 ○ 「言葉の力」について指導し、プラスの言葉があふれる環境をつくる。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが自らの将来に夢や希望をもち、周りの人々とかわりながら主体的に生きようとする意識と態度を育てるキャリア教育を推進する。 ○ 系統性と連続性を重視した9年間の一貫した生き方指導の指導計画を立案、実践することにより、発達段階に応じて身に付けるべき社会性を系統的に育成していく。 ○ 働くことの大切さや、人のために役立つことの喜び、友だちとの仲間意識や思いやりなどを学ぶために、学齢に応じて体験学習を行う。 ○ 各期の取組 <ul style="list-style-type: none"> 【前期】・係や当番の仕事に責任をもって取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・3・4年生は前期ブロック集会を計画し、運営する。 ・町探検を行い、地域で働く人々のことを知る。 【中期】・3年に1度、中期宿泊学習を実施し、出番・役割・承認の集団生活を通して、中期ブロックの仲間づくりを進める。（平成29年度実施予定） <ul style="list-style-type: none"> ・地域の「歴史や産業」をテーマに総合的な学習を行い、関係施設の見学や調査研究等を行う。 ・デイサービス訪問を行い、看護の実際にふれるとともに、地域のお年寄りとの交流を楽しむ。 【後期】・8・9年合同の高校説明会を行い、進路計画を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・農業施設見学、看護体験、職場体験を通して、職業に対する理解を深める。（8年） ・北部保育園で保育体験を行う。（9年家庭科）
情報モラル教育	<p>○「インターネットの正しい使い方」「著作権」「個人情報保護」などを取り扱い、「人を傷つけない」「自分が事件に巻き込まれない」よう、各教科・道徳・学活等、教育活動全般にわたって指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【前期】・パソコンの使い方だけでなく、日常の話し方、手紙の書き方等、基本的なマナーを習得させる。 【中期】・パソコンを使つての調べ学習の際、有害なサイト等に入らないよう危険性を認識させ、正しいパソコンの使い方を習得させる。 【後期】・スマートフォン、タブレット、パソコン等、興味本位で所持しないよう指導を行うとともに、授業参観、育友会等で保護者も含め、安全な情報機器の取り扱いの啓発を行う。

教 育 課 題 へ の 対 応	<p>* (環境教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 佐賀市学校版環境ISOの行動計画に基づき、児童生徒会を中心にして環境教育の推進に努める。 ○ 学期に1回、児童生徒集会で環境ISOに関する取組を行い、環境意識を高める。 (集会での呼びかけ・ISO宣言の唱和、ボランティア清掃など) ○ 学期に1回、環境チェック(1週間)と環境アンケートを実施し、実行目標を確認する。 ○ 緑の少年団の一員として、緑化活動・環境保全活動を推進する。(小学部) <p>* (情報教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パソコン室の学習センター化を図るとともに、情報スキルだけでなく情報モラルやマナーの指導を行う。 ○ ICTを活用した授業を推進する。テレビ会議システムを活用した交流授業を推進する。 <p>* (図書館教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ボランティアによる月に一度の「読み語り」の実施及び図書館便りの発行、また年1回図書館祭りを実施する。 ○ 児童生徒の活動による年間の学年別読書冊数及び貸出冊数の目標設定、学級文庫の設置、朝読書の時間の確保、読書ノートの活用などを通して、読書習慣の向上を図り、語彙力を増やす。 <p>* (食育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の食に関する実態を把握し、健康・成長・安全に関する知識・理解を図り、よりよい食生活実践への意欲づけを家庭科その他の教科、総合的な学習の時間などで積極的に行っていく。 ○ 給食時の保体委員会の活動や給食週間での指導などを通して、児童生徒の食生活に対する意識を高めさせる。 ○ 学期に2回程度の縦割り班によるふれあい会食を実施する。 ○ 給食センターと連携し、保護者・祖父母・新入学児を対象とした給食試食会を行い、「食に関する指導」の充実を図る。 ○ 夏と冬の地域と連携した行事での、保護者や地域の人と料理をつくる活動、つくったものを皆で食することを通して、先人の知恵や食事のマナーを学ぶ。 <p>* (その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 育友会組織を通して地域の方々の協力を得た行事等を行い、学校の教育活動への積極的な参加を求め、地域コミュニティの核として、地域の活性化に貢献する。 ○ 地域の協力的な風土のもとで、児童生徒の健やかな成長と地域の活性化をめざした「ふれあい企画行事」(サマーキャンプ・冬の北山まつり等)に取り組んでいく。 ○ 北山東部小学校や新栄小学校、大和中学校、ろう学校など他校との直接交流を継続し、また、ICT機器を活用しての新たな遠隔地交流校とも学び合いながらコミュニケーション能力を高める。 ○ 学校評価は、PDCAサイクルによる実践とチェック機能を強化し、修正できることはその都度対応していく。
--------------------------------------	---